



子規を松山から世界へ、 そして未来へ 子規・漱石・極堂生誕150年記念式典

正岡子規、夏目漱石、そして子規の顕彰に貢献した柳原極堂の生誕150年を記念した式典が10月14日に子規記念博物館で開催されました。式典では子規研究の第一人者で俳人の坪内稔典さんによる基調講演のほか、日本文学研究者のロバートキャンベルさん、本市出身の俳人・神野紗希さんも参加したパネルディスカッションが行われました。



坪内 稔典さん

基調講演で坪内稔典さんは、「子規の俳句や短歌などの創作活動について、「一人で行うのではなく、常に仲間と一緒にだった」と、子規の仲間と共に文学に取り組む姿勢を特徴に挙げました。

また、「柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺」の句の誕生のエピソードや漱石の小説「三四郎」の一説に触れながら、漱石との友情や、極堂との関係をユーモアを交えて紹介し、「友と友をつなぐものとしてユーモアは最良の方法」と語りました。その後のパネルディスカッションでは、子規記念博物館の竹田美喜館長の進行で、坪内さんに加えて、テレビでコメンテーターとしても活躍するロバート



ロバート キャンベルさん

キャンベルさんと、俳人の神野紗希さんが参加。キャンベルさんは、「日本の文学が本来持っていた『あらゆるものを取り込む力』が、明治時代になって揺らぎ始めた時に子規が現れた」と、子規の文学での功績を強調した上で、俳句を含めた日本の文学には、世界に伝える大きな価値があると述べました。



神野 紗希さん

神野さんは、自身も出場したことのある俳句甲子園について触れながら、「一時期に比べると今は20代、30代の俳句人口も増えてきている。短くて速いものが求められる現代だからこそ俳句の在り方があるので」と、インターネットなどを活用した句会や子規の新しい顕彰方法を提案していました。

俳句が息づいて
いるまち・松山



原田 友貴さん
(千葉県柏市)

千葉県から聞きに来ました。式典で子規の人としての魅力を改めて感じました。席の両隣のお二人が「普段から俳句を作る」と言われていて、松山には俳句が息づいているのだと実感しました。

若い世代ならではの
手法で



豊富 瑞歩さん
(森松町)

言葉や文化は形のないものだからこそ、かけがえない大切なものだと感じました。ウェブマガジンやツイッターなど、私たちが若い世代なりの俳句・文学の表現・交流方法があると思いました。

子規博の名品も
披露されました

9月2日から10月29日の間、子規の文学活動や人物像などを象徴する代表的な資料が「子規博の名品」として展示されました。

その中で、10月14日に新たに本市の指定有形文化財に指定された、子規の指定直筆資料、子規選句稿「なじみ集」、子規歌稿「竹乃里歌」、子規画「玩具帖」も公開されました。



公開された子規歌稿「竹乃里歌」

子規記念博物館 ☎931 566・☎934 3416

主な内容

- 子規顕彰全国俳句・短歌大会入賞作品紹介…5面
- 人事行政の運営状況を公表……………4面
- 道後温泉本館保存修理工事費用の寄付募集……………2面
- 市民ガイド……………7~11面

発行：松山市役所
編集：総合政策部シティプロモーション推進課
毎月1日・15日
☎948-6705 ☎934-2578
http://www.city.matsuyama.ehime.jp/